

August 7, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米中通貨安戦争への警戒感後退で 106.60 円まで強含み

6日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4営業日ぶりに反発。終値は106.47円と前営業日NY終値(105.95円)と比べて52銭程度のドル高水準だった。東京市場では105.52円と1月3日以来約7カ月ぶりの安値まで下落したあと、107.09円まで急速にショートカバーが進むなど荒い値動きとなった。

中国人民銀行の幹部らは外国企業に対して「人民元の大幅な下落は続かない」と伝え、不安の払しょくに努めたと伝わった。また、クドロー米国家経済会議(NEC)委員長は「トランプ米大統領は中国との協議継続を望んでいる。中国への関税についての状況は変わり得る」などと語った。米中通貨戦争に対する警戒感が後退し、ダウ平均が320ドル超上昇すると円売り・ドル買いが出た。ダウ平均が下げに転じたタイミングで一時106.25円付近まで弱含む場面もあったが、ダウ平均が持ち直すとドル円も再び106.60円台まで値を上げた。

ナバロ米大統領補佐官(通商担当)は「FRBは年末までにあと0.75%か1.00%利下げすべき」などと述べ、ブラード米セントルイス連銀総裁は「追加利下げが必要か今すぐ決めるのは時期尚早」と述べた。

ユーロドルは4日ぶり小反落。終値は1.1199ドルと前営業日NY終値(1.1203ドル)と比べて0.0004ドル程度のユーロ安水準だった。ユーロポンドの下落につれた売りで1.1168ドルまで下落した。米10年債利回りが低下に転じるとユーロ買い・ドル売りが強まり1.12ドル台前半まで持ち直した。

ユーロ円は続伸。終値は119.24円と前日NY終値(118.70円)と比べて54銭程度のユーロ高水準。ポンドやドルに対してユーロ安が進んだ流れに沿って118.93円付近まで売りが先行したものの、米中対立への警戒感が和らいだこともあり、119.35円付近までじり高となった。

【本日の東京為替見通し】ドル円、中国人民銀行のドル・人民元の基準値に要注目か

本日の東京市場のドル円は、米中貿易戦争から米中通貨安戦争への戦線拡大を見極める意味で、中国人民銀行が10時15分頃に公表する外国為替市場での人民元取引の基準値となる「中間値」に注目する展開となる。

5日の基準値は、6.9225元に設定され、中国政府がトランプ米大統領の対中制裁関税第4弾(3000億ドル・10%)への対抗措置として人民元安誘導という「為替操作」に乗り出したとの思惑から、ドル・人民元は2008年以来の1ドル=7元台に上昇した。

6日には、米財務省が1994年7月以来25年ぶりに中国を「為替操作国」に認定し、市場は「米中貿易戦争」から「米中通貨安戦争」へ戦線が拡大したとの認識で、リスク回避地合いとなった。

しかし、昨日は、中国人民銀行が基準値を6.9683元と7元以下に設定したことで、米中通貨安戦争への警戒感は後退し、ドル円は105.52円から107.09円まで反発した。

中国人民銀行幹部が外国企業に対して「人民元の大幅な下落は続かない。中国は為替操作をしていない。中国は競争的な通貨の切り下げをしない」と説明したことも、米中通貨安戦争への警戒感を鎮静化させた。

本日も中国人民銀行の基準値に注目しながら、米中の要人発言、ドル・人民元(オフショア)や日米中の株価指数の動向に要警戒となる。

リスクシナリオは、ドル・人民元が2008年以来の水準、為替操作国認定が1994年以来となっていることで、米財務省が2000年以来となるドル売り介入に乗り出す可能性となる。

米国財務省は、通常、4月と10月に議会に提出する「為替政策報告書」において、「為替監視対象国」や「為替操作国」を認定するが、昨日の緊急認定は、米中通貨安戦争の宣戦布告と受け取られた。米財務省が中国を「為替操作国」に認定したことで、中国財政省と協議し、国際通貨基金(IMF)へ訴えることになるが、国際通貨基金(IMF)は先日の報告書で「人民元水準はファンダメンタルズに合致している」と言及しており、為替操作の訴えは却下される可能性が高い。そして、制裁措置としての関税賦課は、9月以降は5500億ドルに化されることで、米財務省が抜いた「伝家の宝刀」は、木刀か竹光に過ぎないのかもしれない。

1994年1月1日に、中国人民銀行は、ドル・人民元レートを1ドル=5.8元から1ドル=8.71元に切り下げ、7月にクリントン政権は、中国を「為替操作国」に認定した。しかし、当時の米国の対中貿易赤字は295億ドルに過ぎず、貿易不均衡は正圧力は、貿易赤字が657億ドルだった日本に向けられていたことで、市場の話題にもならなかった。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 日銀金融政策決定会合における主な意見（7月29-30日分）
- 08:50 ◇ 7月外貨準備高

<海外>

- 11:00 ☆ ニュージーランド準備銀行（RBNZ）、政策金利発表（予想：1.25%に引き下げ）
- 12:00 ◎ オアRBNZ 総裁、記者会見
- 13:00 ◎ エバンズ米シカゴ連銀総裁、講演
- 15:00 ◎ 6月独鉱工業生産（予想：前月比▲0.4%/前年同月比▲3.1%）
- 15:15 ☆ インド中銀、金融政策決定会合（予想：5.50%に引き下げ）
- 15:45 ◇ 6月仏貿易収支（予想：41.18億ユーロの赤字）
- 15:45 ◇ 6月仏経常収支
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 21:00 ◎ 6月ブラジル小売売上高指数（予想：前年同月比0.6%）
- 23:00 ◇ 7月カナダIvey購買部協会景気指数（予想：53.0）
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 8日 02:00 ◎ 米財務省、10年債入札
- 8日 04:00 ◇ 6月米消費者信用残高（予想：160億ドル）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

6 日 07:02 ムニューシン米財務長官

「中国を為替操作国と認定」

「不公平な競走上の優位を排除すべく IMF に働きかける」

「競争的切り下げを控えるとの中国の G20 での約束に違反する」

6 日 09:53 財務省幹部

「為替市場、緊張感を持って見続ける」

「米国の対中為替操作国認定は予想していなかった」

6 日 11:42 韓国金融委員会

「必要なら株式市場の空売り規制を強化する可能性」

「株式相場の値幅上限縮小を検討する可能性」

6 日 13:30 オーストラリア準備銀行(RBA)声明

「経済の持続的成長と長期にわたるインフレ目標の達成を支援するために必要であればさらなる金融緩和を行う」

「労働市場の動向を注意深く監視」

「金利は長期間低水準にとどまる見込み」

「2019 年の豪経済、2.5%成長見通し」

「インフレが徐々に上昇するシナリオは維持するが、2%に回復するには予想よりも時間がかかる可能性」

6 日 16:16 中国人民銀行(PBOC)

「中国は為替操作をしていない」

「中国は競争的な通貨の切り下げをしない」

6 日 22:15 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

「トランプ米大統領は中国との協議継続を望んでいる」

「中国への関税についての状況は変わり得る」

6 日 22:38 ブラード米セントルイス連銀総裁

「貿易摩擦巡る応酬に FRB は対応不可能」

「貿易情勢が世界的な投資と成長の重し」

「6 月から自身の見通しが劇的に変わったとは思わない」

6 日 23:00 ラーブ英外相

「英国は合意の有無にかかわらず 10 月 31 日に EU から離脱する」

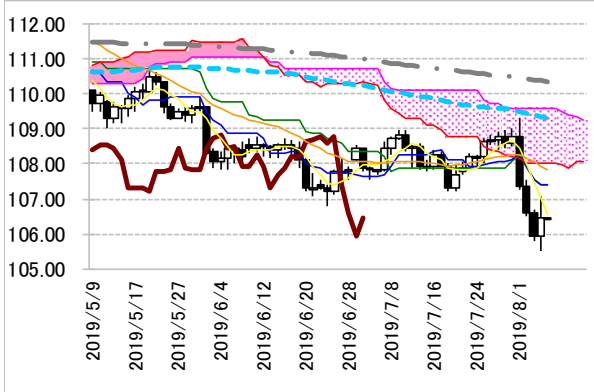
「英国は依然として EU との合意を望む」

6 日 23:51 ナバロ米大統領補佐官(通商担当)

「FRB は追加利下げすべき」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

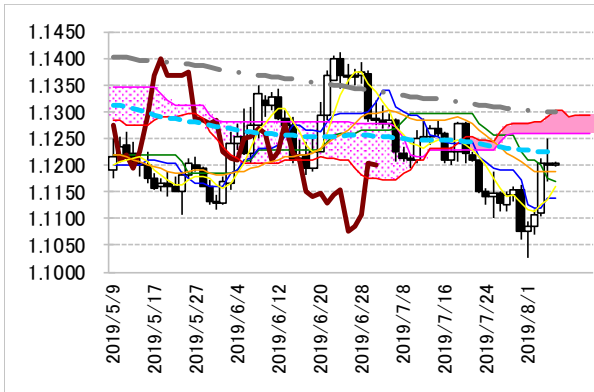


<ドル円＝転換線・基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値だが、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。8月1日に109.32円まで上昇後、抱き線、3手連続陰線で反落したものの、底値圏での孕み線で、反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線・基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上回った場合は手仕舞い。

レジスタンス1	107.42(日足一目均衡表・転換線＝基準線)
前日終値	106.47
サポート1	105.52(8/6安値)
サポート2	104.87(1/3安値)

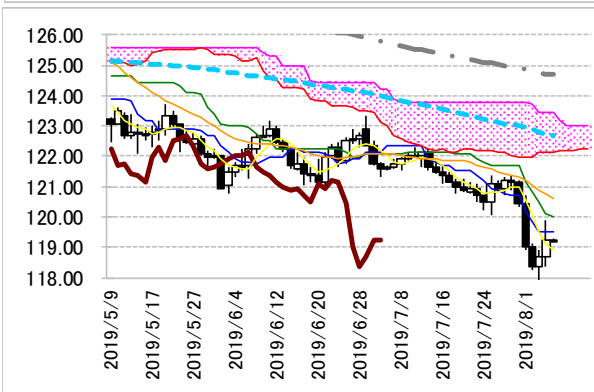


<ユーロドル＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。8月1日は1.1027ドルまで続落した後、孕み線、3手連続陽線で反発したことで上昇トレンドの可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1260(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1199
サポート1	1.1139(日足一目均衡表・転換線)

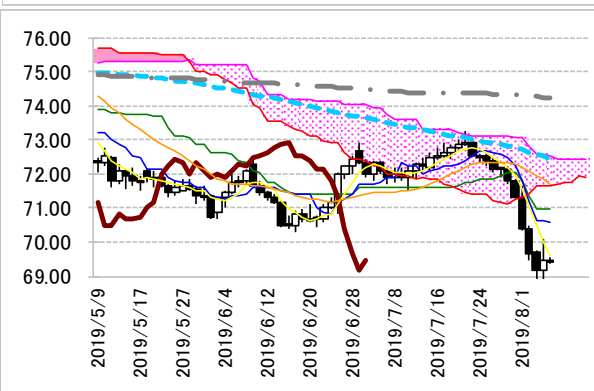


<ユーロ円＝8/6安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での孕み線、2手連続陽線で反発の可能性が示唆されている。

本日は、8月6日の安値を支持に押し目買いで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	120.00(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	119.24
サポート1	118.38(8/6安値)



<豪ドル円＝8/6安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、陰線新安値9手の後の底値圏での孕み線で、反発の可能性が示唆されている。

本日は、8月6日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	73.41(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	71.97
サポート1	71.24(8/6安値)

